

<支部連絡窓口>
千葉県隊友会館山支部
事務局(代表)川村 巖
Tel 0470-22-0230



超大型台風15号によって南房総はじめ千葉県各地が被災した被害は、長期日に及ぶ停電も加わり、筆舌に尽くし難い甚大なものでした。
21空群が地元紙に提供した館山市・近隣地域の航空写真から見てもその悲惨さは一目瞭然、わが目を疑うような光景でした。
被災された皆様には心からお見舞い申し上げます、一日も早い復興を祈念申し上げます。



<館山基地での生活支援のひとつ>
21AWオフィシャルサイトから転載

支部の活動概要

<<10・11活動予定>>

- 10.4/5 館山航空基地開隊66周年記念行事(中止)
- 10.10(木) 旧海軍予備学生慰霊祭(安房神社)
- 11月下旬 館山航空基地殉職隊員慰霊祭
- 11.30(土) 支部役員会(コミセン)

<<8・9月活動実績>>

- 8.15(木) 歴史研修支援(横浜)
- 9.28(土) 支部役員会(10.5に延期、コミセン)

第21航空群に激励品を贈呈

9. 27 館山航空基地

千葉県隊友会会長代理日向副会長に同行して第21航空群を訪問、小俣群司令に対して台風15号による南房総地域の災害復旧支援・生活支援等に従事中の部隊・隊員の労をねぎらい、日向会長代理から隊友会として感謝の気持ちを込めた激励品が贈呈されました。

地元紙でも報道されておりますが、第21航空群としては災害派遣要請に応え、9月11日から23日まで基地の浴場を解放して入浴支援や洗濯、給水支援などの生活支援を、また各地から南房総地域に派遣された陸海空災害派遣部隊の一部に対して宿泊給養等の支援を行っております。

また、災害派遣に出動し各地で復旧・生活支援活動等に従事した在葉各部隊に対して、派遣規模等に応じて県隊友会から激励品が贈呈されております。

<台風15号の災害に対する千葉県隊友会としての対応>

県隊友会防災担当大根理事が台風直後に南房総市に赴き、安房支部会員の支援を得て被災会員の被災状況調査及び復興支援ボランティアチーム派遣の可否、適否を判断する上での情報収集に当たっております。

お願い：「罹災証明」受けられた会員の方へ

今回の台風15号による広域的な被害は「激甚災害」に認定され、家屋等の全壊・半壊以外に一部損壊についても、復旧のため政府として支援することが決定されております。そのためには市町村が認定し発行する「罹災証明」が必要になります。

千葉県隊友会としては、罹災証明を受けられた会員に対して気持ちばかりのお見舞金を準備しておりますので、すでに罹災証明を受けられた方、現在手続中もしくはこれから手続きする方がおられましたら、至急、支部事務局へ連絡をお願いします。

<館山支部事務局> Tel 0470(22)0230

お断り「隊友千葉だより」の発刊休止について

隔月発行の「隊友千葉だより」については、編集長を務められた精山事務局長が加療入院のため、当面、発行を休止することになりましたのでご了承下さい。
なお、千葉県隊友会に関する情報・連絡等については下記をご覧ください。

千葉県隊友会ホームページ <http://www.chibataiyuu.com/>



桜花発射台跡
(房総南部下滝田山中)

<発射台上の「桜花43乙型」>
イメージ図



発射台(滑走軌条)
噴進滑走車(加速車)

随想：異民族の支配を受け続けた「朝鮮」とは・・・

以前、「韓流時代劇にハマル」としてこの欄で書いたことがあります。最近では以前に放映されたリバイバルものが多いようですがそれでもついつい最後まで観てしまうのです。あくまでもドラマとはいえ、史実とフィクションが交錯する歴史絵巻として理屈抜きで面白いと思うのです。

ドラマで特に感じたのは、王朝時代(1392~1910)の朝鮮が500年余にわたって明・清(中国)の支配を受けていたことで、ドラマの中でも絶えず「明・清の影」がちらついているのです。当時は明・清国を「宗主国」として仰ぎ、定期的な貢物に限らず軍事、政治、諸制度等、いろんな面で宗主国の要求に従わざるを得なかったようです。

次期国王候補(「世子(セジャ)」)を決める上でも明(清)国皇帝の承認が必要という厳しい制約があり、かつて外敵の女真族(後満州族)の侵攻を防ぐために、朝鮮に対して10万の兵力の派出(派兵)を強く求めたり、時折やってくる明(清)国の使節団に「今度は何を要求されるのか」と、その対応に朝廷は戦々恐々たる思いで臨んだといわれます。

もうひとつ王朝時代のドラマの中で特徴的なことは、「両班(ヤンバン)と奴婢」からなる身分制度で、特権的な階級と呼ばれ両班に比べ、奴婢(役人・官吏でない庶民のこと)が過酷な年貢や生活面での厳しい束縛を受けていた様子が、ドラマの中でよくよく強調されているのです。ちなみにこの身分制度を撤廃したのは日本の朝鮮統治政策なのですよ！

王朝時代以前も異民族の支配を受けていた朝鮮

歴史を遡って調べてみますと、紀元前40年ころから建国された新羅、高句麗、百済の三韓時代から南北・高麗時代を経て3が成立するまでの約1400年間、形は異なれ朝鮮は中国(唐、宋、元など)の支配を受けており、実際、高句麗の後身「高麗」元(中国)の属国として、元が日本に出兵(「文永・弘安の役」1274・1281年)したときには、高麗(朝鮮)は元の前進基地として役割、船や糧食の準備など過酷なノルマを課せられております。

このように朝鮮は、王朝時代と合わせると実に1900年間にわたって異民族の支配を受けていたことになるのです。

日韓併合条約の締結(1910年)により朝鮮王朝は消滅し、日本による統治時代に入りましたが、大戦を経て朝鮮(韓国)が民主国として世界に独立を宣言したのは、朝鮮動乱勃発の1年前(1949年)のことだったのです。

史実を尊重する歴史ドラマと・・・

数多く制作された韓流歴史ドラマは、「史実を尊重する」正統派が主流を占めていると言われております。ところが独立後の韓国では、日本が膨大な国家予算と人を投入した朝鮮統治時代(1910~1945)の史実・功罪について、いかわしい従軍慰安婦や徴用工問題が蒸し返され強調される一方で、前述の身分制度の撤廃に限らず教育制度改革による進学率向上(3%→71%)や衛生思想・医療制度の普及による疫病・伝染病の撲滅など(まだまだ沢山ありますが)、統治時代の功「功」の部分がすべて封印され、一切表に出てくることがないのです。これも不思議なことだと思いませんか。

今後とも、朝鮮という国をもう少し掘り下げて勉強してみようと思います。 <川村 巖会員(海)、支部長>

「桜花43乙型(特攻機)」に託した人々の思い(前)

房総南部の下滝田山中に写真のような構築物が残っている。海軍が本土決戦兵器として戦争末期に建設を下命した特攻兵器の発射台跡である。戦後、滑走台から発射される「人間ロケット」として揶揄的なトーンで紹介されている。

正式には、「桜花43乙型」として開発が進められていたターボジェットエンジン推進の特攻機で、ロケットではない。残された記録文書や有関係者の証言も極めて少なく、その全容は知られていない。

数年前、(公財)水交会の会報「水交」に連載した拙稿の中から、この兵器の開発構想、配備計画やどのように使おうとしていたのかについて少ない資料に基づく推測を交えてアウトラインを紹介する。

構想の端緒

S19年末期、初めて作戦に投入され悲惨な運命を辿った「桜花11型」特攻機(母機から上空で切り離され、滑空で敵艦船に突入)の「苦い戦訓」に鑑み、自力で飛行・突入できる桜花の開発は作戦者たちの悲願であった。折しも海軍が双発特殊攻撃機「橘花(「きっか」)」の原動機として開発を進め、実用化の目途が立ったガスタービンエンジン(「ネ20」)に白羽の矢が立てられた。燃料・金属材料の枯渇、空襲による生ラインの破壊、少ない技術者等々、悪条件の中で低質の燃料で運用ができ、少ない部品アイテム数で製造できる利点を買われたものでこれを「桜花」の原動機として、陸上基地から発進し、自力で飛行・突入する特攻機の構想が生まれた。

発射基地の建設下命、難航した建設場所の選定

終戦の年の5月下旬に発射基地の建設が下命された。非公式な記録によれば、房総から紀伊半島にかけて太平洋沿岸沿いに50箇所近い発射基地の建設が計画された。房総南部では下滝田、上滝田、平群ほか、房総東部では行川、黒原、大多喜ほか、それぞれ6箇所の基地建設が下命されたが、運用要求を満たす場所の選定が難航し、現在、発射基地跡を確認できるのは房総南部の下滝田と東部の行川の2箇所だけである。発射基地は上空からの偵察・発見を防ぐため、短い発射台(「滑走軌条」)を基調とする隠蔽滑走路とされ、工事のための運搬材料置場等の隠蔽など、工事段階から秘匿には細心の注意が払われた。

試作機、加速装置の開発

試作機(桜花43乙型機体)の開発と並行して、付帯装置・設備の開発・試作実験が矢継ぎ早に下命された。全長100m程度の短い発射台(「滑走軌条」)から自力での発進(離陸)が不可能なため、加速装置として火薬ロケット推進による「噴進滑走車」が考案され、横須賀・武山飛行場でのダミー機を用いた発射実験が繰り返され成功を収めている。

すべてが信じ難いような超特急作業で進められた。 <次号に続く> <自称地域史探索マニア その26>

が
き

・

の
ま、
る
込

王朝
は
この

に韓

が
率の
罪の

ト

カ
て、

、
幾と
産
う。

ハ
且
所
略・

韓